

2024 AUTOBACS SUPER GT Round.2

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI / N-RAK PHOTO AGENCY

FUJI



2024 AUTOBACS SUPER GT 第2戦 FUJI GT 3Hours RACE

2024年5月3日(金)～4日(土)
富士スピードウェイ(静岡県)

公式練習

5月3日(金・祝) 天候:晴れ 路面:ドライ

4月12～13日に岡山国際サーキットで行われた第1戦では、得意コースだったにも関わらずスタート直後に思わぬアクシデントに見舞われレースを失ってしまったTGR TEAM ENEOS ROOKIE。気持ちを切り替え臨む第2戦の舞台は、静岡県の富士スピードウェイ。チームの地元でもあり、豊富なデータを持っている、こちらも相性が良い一戦だ。シリーズの流れを考えると、このレースは絶対に落とすわけにはいかない。TGR TEAM ENEOS ROOKIEのメンバーは強い気持ちでレースウィークに臨んだ。

そんな第2戦は、例年ゴールデンウィークに開催されることから多くのファンが訪れるが、迎えた5月3日(金・祝)は前夜からたくさんの来場者がコースサイドに詰めかけた。晴天に恵まれ富士山が顔を出すなか、午前

9時から公式練習が行われた。

岡山でのアクシデントから修復されたENEOS X PRIME GR Supraのステアリングを握り、コースインからドライブしたのは大嶋和也。午後の公式予選に向け、3回のピットイン～アウトを繰り返しながら、セットアップを確認していく。

大嶋のフィーリングは決して悪いものではなく、17周を走るとふたたびピットへ。福住仁嶺にENEOS X PRIME GR Supraのステアリングを託した。

福住はその後、ロングランを試すと、GT300クラスの専有走行をはさみ再コースイン。予選シミュレーションを行っていくと、チェッカー一周に1分27秒568を記録。このタイムで5番手につけ、GR Supra 勢の最上位につけることに成功した。

とはいえ、今回はコース特性の影響がライバル車種が速い。3時間という長丁場のレース距離とはいえ、良いグリッドを獲得するためにはあともう少しスピードが欲しい。

チームは午後の公式予選での好グリッド獲得に向けて、ENEOS X PRIME GR Supra にさらに磨きをかけるべく、セットアップを煮詰めていくことになった。



ROOKIE RACING



公式予選

5月3日(金・祝) 天候:晴れ 路面:ドライ



午前には続き晴天のもと迎えた午後2時58分からの公式予選。今季から導入された新たな予選スタイルでは、Q1、Q2とも安定したタイムを記録しなければ好グリッド獲得はできない。TGR TEAM ENEOS ROOKIEは上位進出を目指し、Q1のアタッカーに福住を据えた。

しっかりとタイヤをウォームアップさせタイムを上げていった福住は、6周目に1分27秒050までタイムアップ。オーバーステアが感じられるフィーリングだが、それでも4番手につけQ2の大嶋に ENEOS X PRIME GR Supra を託した。

福住のフィーリングをもとに修正を行った ENEOS X PRIME GR Supra をドライブする大嶋は、福住同様タイムを上げていく。しかしアタック周にコカ・コーラ・コーナーの縁石に乗ってしまい、まさかのスピンを喫してしまう。幸いクラッシュはなく、大嶋は再度アタックを展開するが、フィーリングが戻ることはなく、1分28秒062というタイムを記録し、合算で ENEOS X PRIME GR Supra は7番手につけることになった。ライバル車種が速いなかではあるが、チームは翌日の決勝に向け、さらにセットアップ向上の必要性を感じていた。

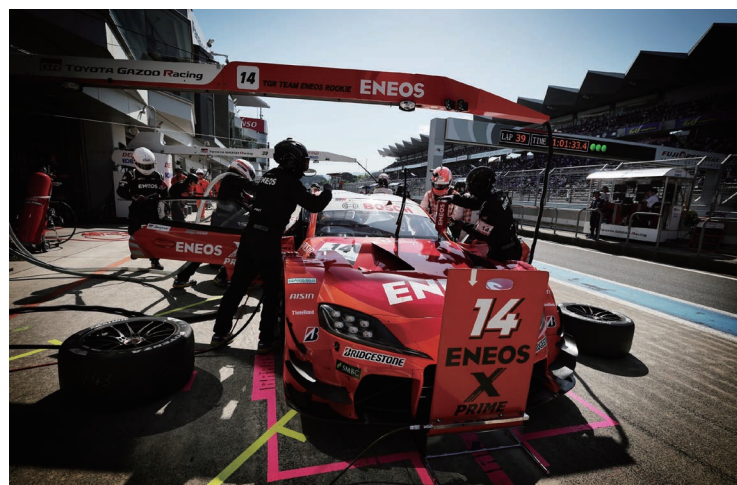
決勝レース

5月4日(土・祝) 天候:晴れ 路面:ドライ

5万3900人ものファンが訪れ、賑わいをみせた5月4日(土・祝)の決勝日。気温23℃/路面温度41℃というコンディションのもと、午後1時30分に決勝レースの火ぶたが切って落とされた。ただ、ENEOS X PRIME GR Supraは前日の予選Q2でのスピンの影響でタイヤにダメージを受けていたことから、ピットスタートを選択することになった。スタートとともにタイヤ交換を行い、追い上げる作戦だ。ただ、SUPER GTの性格上GT500クラスの集団に追いつくためには、まずはGT300クラスの車両を一刻も早くかわしGT500の集団の背後についていくことが求められる。

スタートと同時に、大嶋和也が乗り込んだ ENEOS X PRIME GR Supra は、迅速なタイヤ交換を行うと猛然とピットアウト。2周目にまずGT300車両を2台かわすと、6周目にはGT300車両をすべてかわしGT500車両を追っていく。ENEOS X PRIME GR Supraの感触は悪いものではなく、ジリジリと14番手の#24 Z NISMO GT500との差を縮めていった。3時間という長丁場のレースで、どれだけ順位を上げることができるか。3時間レースで2回の給油をともなうピットストップが求められるレースで、大嶋はライバルたちが早めにピットインしたことともない7番手までポジションを上げると、39周を終えピットイン。福住にステアリングを託した。

TGR TEAM ENEOS ROOKIE が望んでいたのは、各車のギャップが一気に縮まるセーフティカーランだったが、このレースは序盤にストップ車両によるフルコースイエローが導入されたのみ。燃費も厳しいレースであり、ジリジリとした戦いが続いていた。ただそんななか福住は43周目に#64 CIVIC TYPE-R GTをかわしひとつポジションアップ。さらに翌周には#24 Z NISMO GT500を抜き13番手へ浮上する。8番手以降の



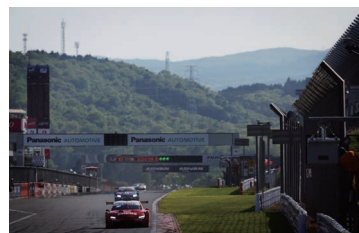
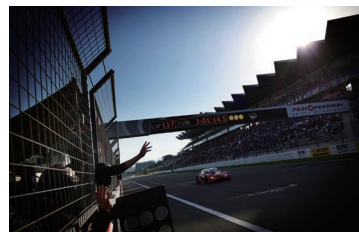
争いは比較的接近した戦いとなり、ENEOS X PRIME GR Supraにもチャンスがありそうだった。

GT500クラスでは、75周を過ぎるころから多くのチームがピットに向かい始める。ここでピット作業をうまく決めれば、さらに差を詰めることが可能だ。TGR TEAM ENEOS ROOKIEも78周を終えピットインし、福住がステアリングを握ったままコースに復帰した。ここで#37 GR Supra、#19 GR Supraの2台をかわすことに成功し、福住は11番手につける。ポイント圏内は目前だ。

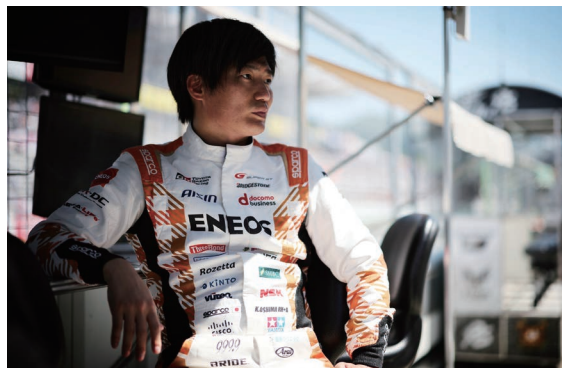
95周目、9番手につけていた#16 CIVIC TYPE-R GTがトラブルによ

りピットイン。これで ENEOS X PRIME GR Supra はついにポイント圏内に入ってきた。さらに102周目、福住は#39 GR Supraをかわし9番手へポジションを上げた。すると、チェッカーまであとわずかかの110周目、今度は3番手を争っていた#8 CIVIC TYPE-R GTがトラブルでストップ。さらにひとつポジションを上げることになった。

追撃はそこまでで、福住がドライブした ENEOS X PRIME GR Supra は8位でフィニッシュすることになった。ピットスタートという苦しい状況ながら、完璧なレースを展開し貴重な2ポイントを得た。

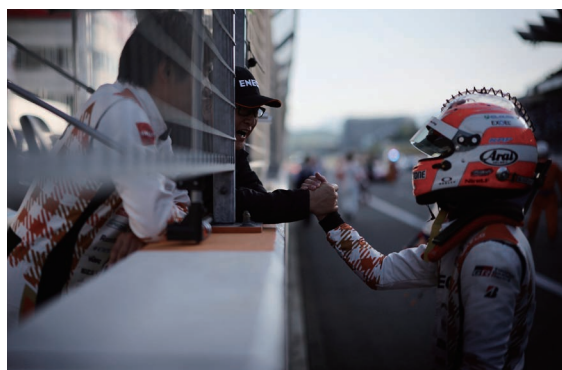


ドライバー／監督コメント



DRIVER **大嶋 和也** Kazuya OSHIMA

公式練習の走り出しからフィーリングは悪くなかったものの、まわりのライバルたちが思った以上に速かったですね。僕もそこそこ乗っていたので自信をもって予選に臨みましたが、少し気負いすぎたのかスピンしてタイヤを壊してしまって。僕としても決勝はこれ以上ミスはできないと、かなり気合を入れて臨んだレースでした。僕としてはコンマ1秒もロスしないように、ほぼ完璧なレースができたと思いますし、トップともほぼ変わらないタイムで走る事ができたと思います。開幕戦からミスが続いていたなかで、今日のレースについては完璧な仕事ができただけではないでしょうか。これで少し気が楽になりましたし、クルマにスピードがあることは確認できたので、次戦の鈴鹿では優勝を狙っています。しっかりと準備していきたいですね。



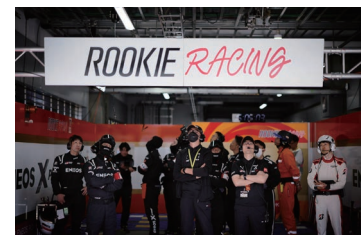
DRIVER **福住 仁嶺** Nirei FUKUZUMI

公式練習から作っていきたくるまの方向性は見えてきていて、公式予選では難しいクルマだったとはいえ、ある程度高いパフォーマンスをみせることができたのではないかと思います。タイヤのトラブルがあり、決勝はピットスタートとなってしまいましたが、セーフティカーを望んでいたものの、みんなが良いレースをしてくれたおかげでセーフティカーは出ず、僕たちとしては少し残念なところもありました。でも僕たちのペースはすごく良かったと思いますし、次戦に向けて見えてきたところもあります。なんとかポイントを獲得することができましたし、まだサクセスウエイトも軽いですからね。僕は昨年まで在籍していたチームでこういうシーズンを過ごしていたので（苦笑）、どんどんチーム力を上げて、今後良いレースができるようにしたいと思います。



DIRECTOR **高木 虎之介** Toranosuke TAKAGI

決勝レースではピットスタート、さらにタイヤ交換も必要な状況で、ラップダウンにもなりかねないところからスタートして、ふたりとも良いペースで走りきり8位まで追いつけることができました。よくあの位置まで追いつけられることができましたよね（苦笑）。結果的にパフォーマンスがあることは確認できたのではないかと思います。悔やまれるところではありますが、結果オーライではないでしょうか。できればセーフティカーが入ってくれば良かったのですが、それがなかったのは仕方ないです。ピットワークでもみんなが完璧な仕事をしてくれました。次回の鈴鹿も優勝を目指していきたいですし、まずは完璧に公式予選をこなすところから始めないといけません。



SUPER GT 第2戦 富士スピードウェイ リザルト

5月3日 公式練習 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time
1	17	Astemo CIVIC TYPE R-GT	塚越広大/太田格之進	BS	1'27.126
2	3	Niterra MOTUL Z	高星明誠/三宅淳詞	BS	1'27.205
3	8	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 8	野尻智紀/松下信治	BS	1'27.298
4	23	MOTUL AUTECH Z	千代勝正/R. クインタレリ	BS	1'27.345
5	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/福住仁嶺	BS	1'27.568
6	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	1'27.600
7	12	MARELLI IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	1'27.639
8	16	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 16	大津弘樹/佐藤蓮	BS	1'27.642
9	38	KeePer CERUMO GR Supra	石浦宏明/大湯都史樹	BS	1'27.823
10	37	Deloitte TOM'S GR Supra	笹原右京/G. アレジ	BS	1'27.920
11	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	1'27.987
12	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/山下健太	BS	1'28.079
13	100	STANLEY CIVIC TYPE R-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	1'28.202
14	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	松田次生/名取鉄平	YH	1'28.502
15	64	Modulo CIVIC TYPE R-GT	伊沢拓也/大草りき	DL	1'28.510

5月3日 公式予選 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tyre	Total Time
1	17	Astemo CIVIC TYPE R-GT	塚越広大/太田格之進	BS	2'53.931
2	3	Niterra MOTUL Z	高星明誠/三宅淳詞	BS	2'54.339
3	23	MOTUL AUTECH Z	千代勝正/R. クインタレリ	BS	2'54.359
4	8	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 8	野尻智紀/松下信治	BS	2'54.398
5	12	MARELLI IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	2'54.622
6	100	STANLEY CIVIC TYPE R-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	2'54.986
7	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/福住仁嶺	BS	2'55.112
8	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	2'55.154
9	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	2'55.174
10	38	KeePer CERUMO GR Supra	石浦宏明/大湯都史樹	BS	2'55.177
11	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/山下健太	BS	2'55.311
12	37	Deloitte TOM'S GR Supra	笹原右京/G. アレジ	BS	2'55.559
13	64	Modulo CIVIC TYPE R-GT	伊沢拓也/大草りき	DL	2'56.203
14	16	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 16	大津弘樹/佐藤蓮	BS	2'56.718
15	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	松田次生/名取鉄平	YH	3'10.628

5月4日 決勝レース (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time/Gap
1	3	Niterra MOTUL Z	高星明誠/三宅淳詞	BS	3:01'16.898
2	23	MOTUL AUTECH Z	千代勝正/R. クインタレリ	BS	13.738
3	17	Astemo CIVIC TYPE R-GT	塚越広大/太田格之進	BS	36.354
4	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/山下健太	BS	38.002
5	38	KeePer CERUMO GR Supra	石浦宏明/大湯都史樹	BS	41.637
6	12	MARELLI IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	48.364
7	100	STANLEY CIVIC TYPE R-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	50.361
8	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/福住仁嶺	BS	54.666
9	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	1'14.583
10	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	1'26.522
11	37	Deloitte TOM'S GR Supra	笹原右京/G. アレジ	BS	1Lap
12	64	Modulo CIVIC TYPE R-GT	伊沢拓也/大草りき	DL	1Lap
13	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	松田次生/名取鉄平	YH	1Lap
14	8	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 8	野尻智紀/松下信治	BS	7Laps
15	16	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT # 16	大津弘樹/佐藤蓮	BS	21Laps

2024 AUTOBACS SUPER GT

ポイントランキング (GT500・トップ 10)

Pos	No	Driver	Total	サクセスウエイト
1	36	坪井翔/山下健太	31	62kg
2	3	高星明誠/三宅淳詞	27	54kg
3	23	千代勝正/ロニー・クインタレリ	22	44kg
4	39	関口雄飛/中山雄一	19	38kg
5	100	山本尚貴/牧野任祐	16	32kg
6	17	塚越広大/太田格之進	14	28kg
7	38	石浦宏明/大湯都史樹	14	28kg
8	12	平峰一貴/ベルトラン・バゲット	5	10kg
9	37	笹原右京/ジュリアーノ・アレジ	4	8kg
10	8	野尻智紀/松下信治	3	6kg
11	14	大嶋和也/福住仁嶺	3	6kg

※サクセスウエイトについて

SUPER GT ではシリーズ創設当初から成績による性能引き下げのため、重りを積む独自のハンデシステムを使用しており、2021年からは「サクセスウエイト」という名称となっています。

2024年の規則では、GT500クラスでは第1戦から第6戦まで獲得ポイント×2kgを搭載しなければならず、参戦7戦目は獲得ポイント×1kg、参戦8戦目は獲得ポイント×0kgとなります。

GT500クラスでは車体の特性上、重りの搭載は50kgまでで、以降はエンジンに噴射する燃料の流量を減らす＝燃料流量リストラクターの数値を減らし、パワーを下げることが併用されます。GT500クラスのサクセスウエイトの数値は下記のとおりです。しばしばチームやドライバーは出力ダウンの段階によって「1リズダウン」「2リズダウン」といった業界用語で表現します。

サクセスウエイト数値	0～50kg	51～67kg	68～84kg	85～100kg
車載ウエイト	0～50kg	34～50kg	34～50kg	35～50kg
燃料流量リストラクター	95.0kg/h	92.6kg/h	902kg/h	88.0kg/h

ROOKIE RACING

 SUPER GT

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

 **ENEOS**

AISIN

 docomo business

ThreeBond

HAYASHI
TELEMPU

いつもさいし、アタラシイコト。
VITEC
Creative Power

Rozetta

 SMBC

 KINTO

 さいたま

vuteq

 TAMIYA

 asics

 ENKEI



チョコモナカ
ジャンボ

 CISCO

TOYOTA MOTOR KOREA